

Close Up**クローズアップ 教育プログラム②**

鹿児島市教育委員会が考案した「デジタル交通安全かるた」をより楽しんで学ぶための新たな活用方法

Hondaが開発した教材「デジタル交通安全かるた」は、こどもたちに覚えてほしい45の交通ルールやマナーを親しみやすく可愛いイラストやアニメーションでわかりやすく紹介している。2023年から小学校の先生方に無償配布しており、児童への日常的な交通安全指導に活用されている。この「デジタル交通安全かるた」の新たな活用方法を鹿児島市教育委員会が考案した。今回はその活用方法を紹介する。

交通安全に関する学びを深めてもらうために

鹿児島県鹿児島市は公立の小中高等学校でのICT(情報通信技術)の活用に力を入れている。すべての児童・生徒に1人1台タブレットを配備。児童・生徒は授業など様々な学びの場面でタブレットを利用している。さらに、鹿児島県では公立の学校に通う児童・生徒は12年間同一のアカウントを使い続けるため、クラウド上に保存した学習成果物をいつでも閲覧できる環境が整備されている。

こうした教育現場でのICT活用を支えているのが、鹿児島市教育委員会 学校ICT推進センターだ。「デジタル交通安全かるた」の新たな活用方法は、同センター 指導主事 嶺山保記さんが考案したもの。嶺山さんは中学校の数学教諭で、2022年度から同センターに勤務している。「デジタル交通安全かるた」は鹿児島市役所で交通安全を担当する安心安全課を通じて知ったという。

「教員だけで手軽に交通安全指導ができる教材だと感じました。その一方で、指導後にこどもたちが自由に使えるようになれば、より学びが深まるのではないかと思いました」。児童が持つタブレットには「ロイロノート・スクール」(以下、「ロイロノート」というアプリがインストールされている。嶺山さんは『デジタル交通安全かるた』と『ロイロノート』を組み合わせれば、タブレットを通じてかるた取りができると考えたそうだ。

『ロイロノート』でかるた取りをするアイデアは以前から持っていたのですが、必要な絵札と読み札を用意することが難しいため、実現できずにいました。しかし、『デジタル交通安全かるた』を入手したことでのこれを活用すれば簡単に実現できると思いました。

かるた取りをはじめ、様々な方法で楽しみながら交通ルールを学ぶ

「ロイロノート」は同じ画面をクラス全員で共有しながら協働学習ができる。嶺山さんは、この機能を利用して「デジタル交通安全かるた」で疑似的にかるたの絵札を取り合えるように工夫した。

「ロイロノート」の資料箱にあらかじめ先生がアップロードした「デジタル交通安全かるた」を児童が自分のタブレットに読み込まれると、画面に45枚の絵札が表示され、かるた取りの準備ができる。先生側のタブレットで読み札が読み上げられると、それを聞いた児童は該当する絵札を指でタップ。それを指定のフォルダ(提出箱)へ提出すれば、かるたを取ったことになる。そのフォルダを開くと、誰がどの絵札を送ったか、提出順に表示される。

「タブレットは自宅に持ち帰ることができるので、放課後にこども同士で使うことも可能です。また、デジタル教材に慣れていない小学1年生は、かるた取りで交通安全を学びながら、タブレットや『ロイロノート』の使い方を習得できます」。さらに、嶺山さんはかるた取りだけでなく、絵札と読み札を一枚ずつめくって合わせる神経衰弱も制作した。

『デジタル交通安全かるた』は絵札のイラスト、読み札の文言のどちらも完成度が高いので、交通安全指導には最適です。神経衰弱では、読み札を何回もめくることで、その内容をより印象づけられると考えています。このほか、『ロイロノート』のシンキングツール(写真参照)という機能を使って、こどもたちに



タブレットに表示される絵の中から読み札に合ったものを児童がタップして、かるた取りを行う(写真はイメージ)

画面上で読み札をめくると文言が読み上げられる(音声は読み上げソフトを使って嶺山さんが作成)

タップした絵札を「提出」のアイコンへ移動し、指定されたフォルダに提出する

先生側のタブレットには提出した順番で表示される

絵札(左)と読み札(右)を合わせる神経衰弱

歩きや自転車に気を付けること
車の人の協力も必要なこと
自転車に気を付けること
自転車に気を付けること
シンキングツールを使えば児童に絵札を分類してもらいうる使い方もできる

鹿児島市教育委員会 学校ICT推進センター 指導主事 嶺山保記さん

絵札を分類してもらうことも効果的だと思います。中学校で教員をしていた時は生徒に『見てもらう』という観点で教材をつくっていました。しかし今は、こどもたちが主体的かつ協働的に学びを深められる教材づくりを心がけています」。この「ロイロノート」を使用した「デジタル交通安全かるた」は

今後、同市内のすべての公立小学校で使えるようになる予定だ。そして、嶺山さんは鹿児島県にとどまらず、この教材をより多くの先生方に使ってもらえるようにしたいと考えている。※(株)LooLoが開発した授業プラットフォーム。小学校から大学までの授業で使え、資料のやりとり、思考の可視化、意見の共有が直感的にできることが特徴。